

---

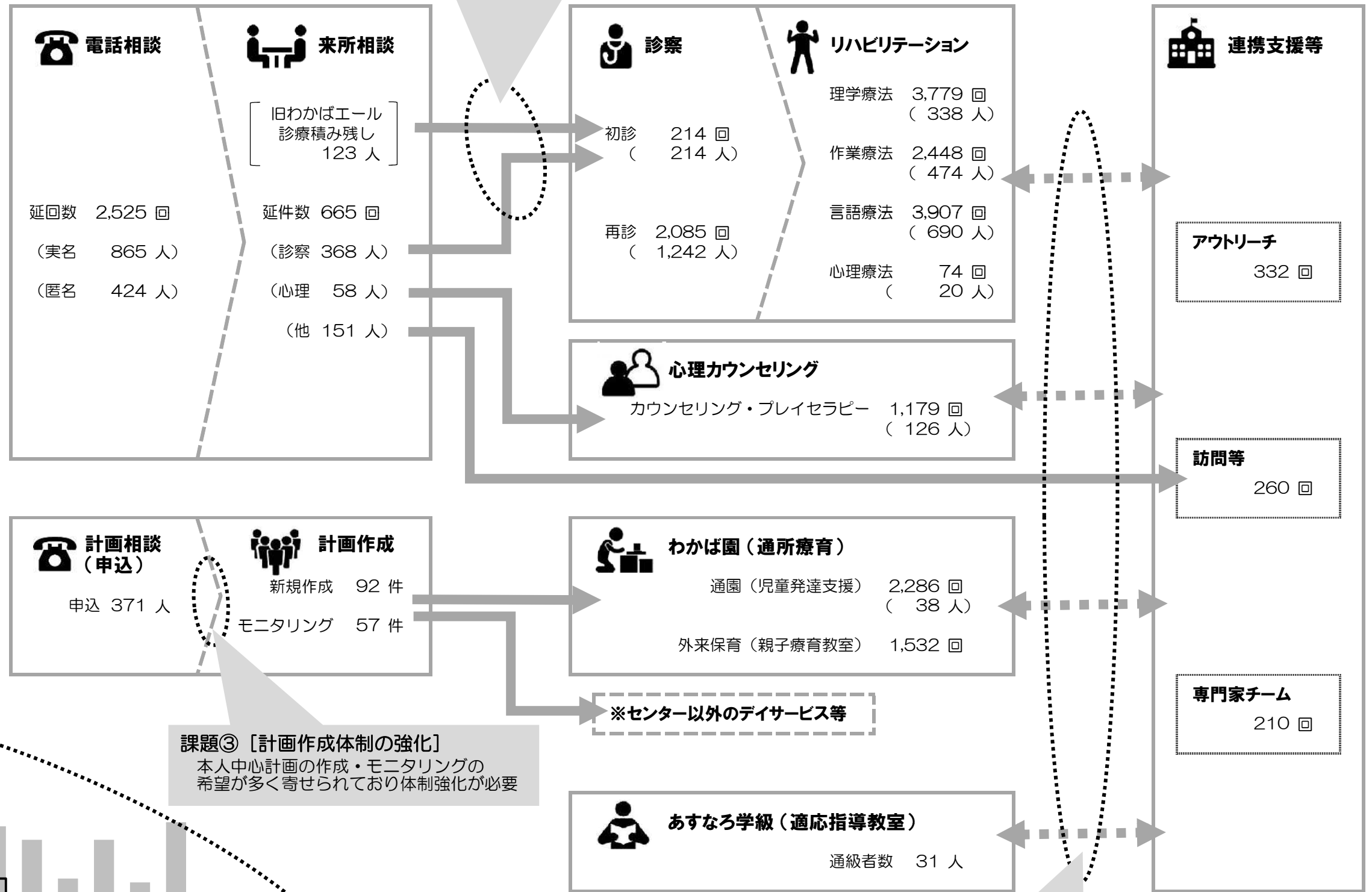
平成27年度 西宮市立こども未来センター  
実績と課題 関係資料

第1回 西宮市立こども未来センター運営審議会  
平成28年5月24日（火）

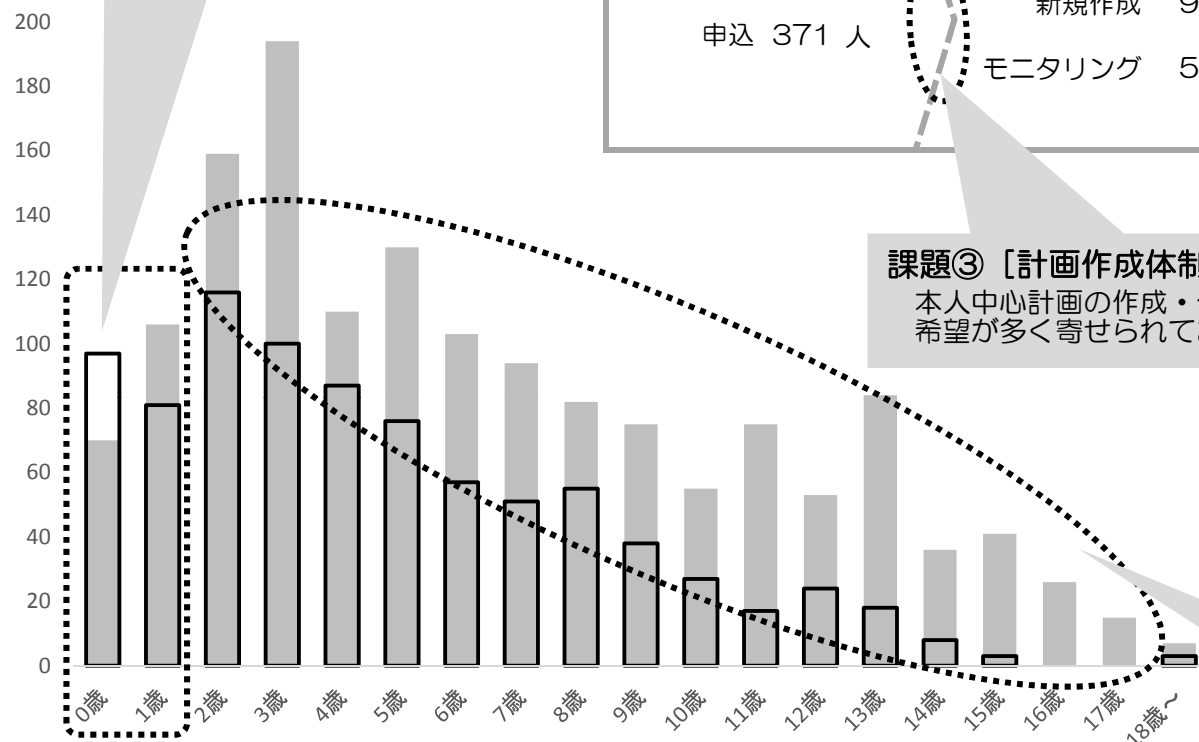
# 平成27年度 西宮市立こども未来センター 実績と課題

(平成27年9月～平成28年3月)

**課題① [診療待ち期間の短縮]**  
 センター開所以降、相談件数が大幅に増加したため、長期化した診療待ち期間の課題は解消できていない。



**課題② [早期発見の強化]**  
 0～1歳児に関する相談人数は、従来とほぼ同数にとどまっており、早期発見への取り組み強化が必要と考えられる。



こども未来センターの相談者年齢構成(人数)を12ヶ月換算し、H26年度のわかばエール相談者数と比較  
 (黒線で囲んだグラフがH26わかばエール、グレーのグラフがこども未来センター)  
 \*年齢が判明しているデータのみで算定(匿名者は含めていない)

**課題③ [計画作成体制の強化]**  
 本人中心計画作成・モニタリングの希望が多く寄せられており体制強化が必要

**課題④ [学齢期の子供に対する支援強化]**  
 学校・幼稚園・保育所に在籍している年齢層からの相談件数は大幅に増加している。このことは学齢期の子供に対する支援ニーズが相当量存在することを示している。

**課題⑤ [地域・学校園との連携強化]**  
 こども未来センターは、学校園や地域との連携を積極的に行うことを目指してきたが、平成27年度においては人員が充足されなかったため、必ずしも十分に実施することができなかった。

豊かな未来へ



共同開発者のみなさま



連合小児発達学研究所 研究科長  
大阪大学大学院 教授 片山 泰一 氏



浜松医科大学子どもこころの発達研究センター  
准教授 土屋 賢治 氏

この資料に掲載されている内容は2015年3月時点の情報です。今後内容に変更が生じる可能性があります。  
あらかじめご了承ください。

※本資料に掲載の機器類は医療機器ではありません。  
※画面はパソコン合成です。

ヘルスケア事業統括部

メディアカルシステム開発スタジオ

TEL 045-444-5354

株式会社 JVCケンウッド

〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町3-12

www.jvckenwood.com

社会性発達評価装置

GazeFinder

# 社会性発達評価装置

## Gazefinder

「GazeFinder」

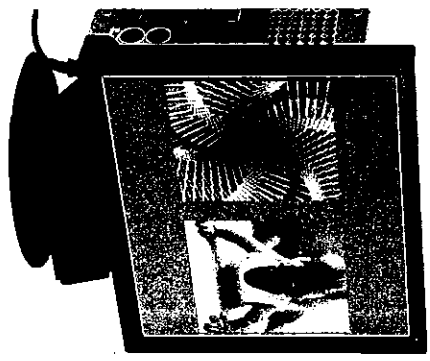
JVCケンウッドでは、これまで培った映像技術、光学技術を活かし、国立小児発達学研究所と協同して、社会性発達評価装置「Gazefinder」の開発を行っています。本装置は、評価用映像に対する注視点を選定することにより、短時間に子どもの社会性発達の傾向を調べることを目指しています。これを応用して、自閉スペクトラム症の早期発見に活用することも可能です。

### 特長

- 子どもを大人の際の上に座らせ、映像を見てもうだけで評価が終了します。一体型であるため、設置、収納が簡単です。
- 電源ボタンを押して、約15秒で評価を開始できます。
- パソコンの知識がなくても、マウスだけで操作ができます。
- 評価にかかる時間は約2分です。

### 活用例と効果

- ① 1歳6ヶ月児健診、3歳児健診、5歳児健診への導入
- ② 治療・療育の効果判定
- ③ 脳機能研究



※画面はパソコンに合成です。



※国立小児発達学研究所  
大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学の合同立大学で構成される博士後期課程のみの独立研究科です。

### 社会性発達評価コンテンツ

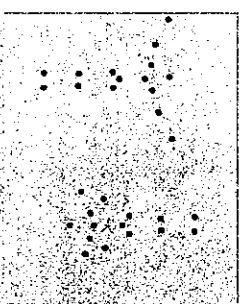
選好動画



怒面動画



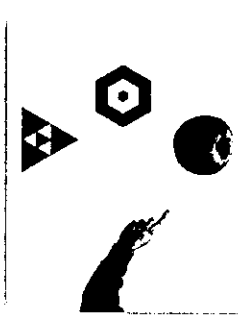
点描動画



顔動画

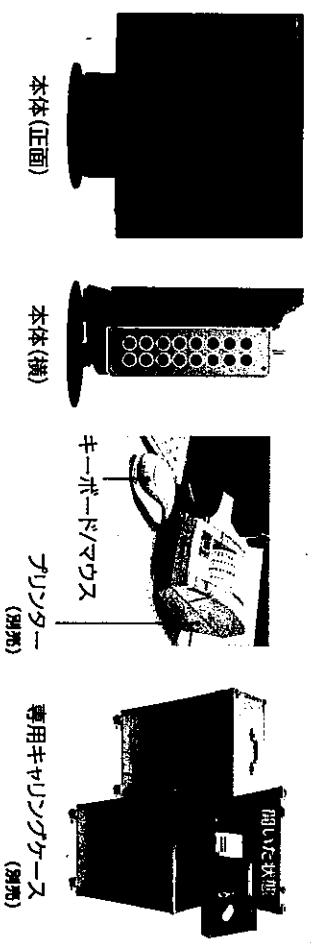


選好動画



\*用途に応じて追加コンテンツのご相談承ります。

### ■概要 Gazefinder



本体(正面)

本体(横)

キーボード/マウス

専用キーボードケース (別売)

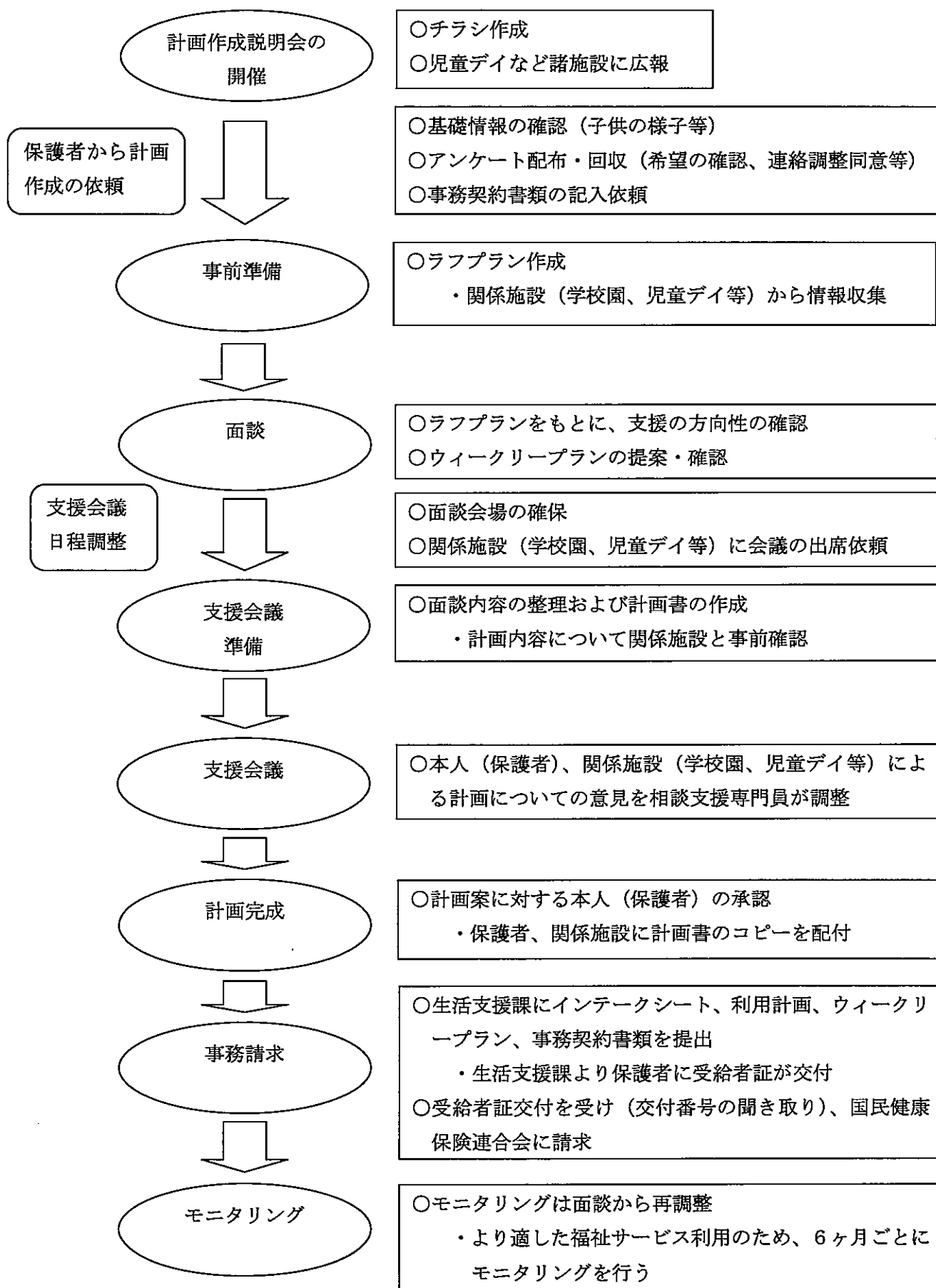
モニター (別売)

画面解像度：1280×1024  
外形寸法：412.5mm×431mm×248mm(横幅×高さ×奥行)

本体重量：12.8kg  
付属品：マウス、キーボード、電源コード  
オプション：モニター、キーボードケース

被験者と装置の距離 推奨70cm

## 障害児支援利用計画作成の流れ



本人中心支援計画案(障害児支援利用計画案)

氏名: [ ] 日時: 27年 1月21日 会議参加者: 母、わかば園 [ ]、西宮たんぽぽ [ ]、こばと幼稚園 [ ]、相談支援専門員 [ ]

本人及びその家族の願い(100文字要約) 僕は、自分の思いをいえる人にならなりたい。遊びや関わりを楽しめるようになりたい。苦手な声や音にも少しずつ慣れていってほしい。身体をうまく使えるようになって身の回りのことができることを増やしたり、散歩を楽しめるようになりたい。

| 本人   | 家族                                   | わかば園                 | それぞれの役割  |  |  |  |                                |
|--|--------------------------------------|----------------------|--|--|--|--|--------------------------------|
|  |                                      |                      | 西宮たんぽぽ   | こばと幼稚園   | 療之舎HP(こどもHP)眼科<br>兵庫医大HP小児科・眼科   |  |                                |
| 大きな希望・目標   | それに向かったの具体的な実行計画(一定の実行期間を提示)         | 本人                   | 家族   | わかば園   | 西宮たんぽぽ   | こばと幼稚園   | 療之舎HP(こどもHP)眼科<br>兵庫医大HP小児科・眼科 |
| ・お店外出前にハンニグに慣れないようにしたい<br>・人の泣き声や怒った声になれないようにしたい | ハンニグになる原因を確認する(6M)                   | 外出を楽しみ慣れていく          | どのような時にハンニグになるのかを把握して、関係機関に相談する。                   | ハンニグになる原因を確認して解決案を考え、家庭にフィードバックする。               | ハンニグになる原因を確認して解決案を考え、家庭にフィードバックする。<br>ハンニグの材料の買い物の場面の練習、いろいろな人と出かける経験を重ねる。 | 家庭、関係機関と連携して幼稚園での関わりを検討する。                     | -                              |
| ・食事に関心できるようにしたい<br>・たくさん食べられるようになる(母)にしたい        | 食事に関心できるようにしたい(6M)                   | 食事を楽しめるようになる         | 食事中でできる環境を確認する                                     | 食事に集中できるようにフィードバックする                             | 食事に集中している理由を考察し、家庭、幼稚園にフィードバックする   | 家庭、関係機関と連携して幼稚園での関わりを検討する(みんなと一緒に食べることが基本とする)。 | -                              |
| ・切り替えがスムーズにできるようにしたい                             | 切り替えが難しい原因を確認して対応を検討する(6M)           | 切り替えに慣れていく           | 関係機関、幼稚園と連携して切り替えができる場面を確認する(終了の手合、予定を伝える、視覚支援の活用) | 切り替えができる方法を検討し、家庭、幼稚園にフィードバックする                  | 成功している場面を考察し、家庭、幼稚園にフィードバックする  | 家庭、関係機関と連携して幼稚園での関わりを検討する。                     | -                              |
| ・発達状況、身体の定期確認をする                                 | 家庭、関係機関が連携してこの本人の発達状況、発達状況を共有する      | 毎日お元氣に遊ごす            | 関係機関と連携してこの本人の発達状況、発達状況を把握する                       | 家庭、関係機関と連携してこの本人の発達状況、発達状況を把握する                  | 家庭、関係機関と連携してこの本人の発達状況、発達状況を把握する  | 家庭、関係機関と連携してこの本人の発達状況、発達状況を把握する                | 定期診察でフォローする                    |
| ・自分の思いを言葉で伝えられるようにしたい                            | 遊びを通じて、行為ことばを結びつけ、相手に意図を向けるようにする(6M) | 遊びを通じて、人と関わることを楽しむ   | 関係機関、幼稚園と連携して関わりを楽しむ環境を確認する                        | 本人の気づきや意図の向け方を検討し、家庭、幼稚園にフィードバックする<br>先、種別支援の活用) | 本人の気づきや意図の向け方を検討し、家庭、幼稚園にフィードバックする   | 家庭、関係機関と連携して幼稚園での関わりを検討する(行動を重複してしていく)。        | -                              |
| ・身体を使いながら遊べるようにしたい                               | 姿勢の安定性を高め、身体をうまく使えるようにする(6M)         | 身体を使った取り組みに慣れるようにしたい | 関係機関、幼稚園と連携して姿勢の安定性を高めることに取り組む                     | 身体を使った取り組みに慣れるようにしたい(ままごとを楽しむ)                   | 身体を使った取り組みに慣れるようにしたい(ままごとを楽しむ)   | 家庭、関係機関と連携して幼稚園での関わりを検討する。                     | -                              |
| ・楽な歩幅で歩けるようにしたい                                  | 遊びを通じて身体機能を高める(6M)                   | いろいろな遊びを体験し始めることを見ずす | 関係機関、幼稚園と連携して楽な歩幅で歩ける環境を確認することを目指す(楽しい)            | 歩幅でできる環境設定を整え遊びを通していろいろな身体機能を鍛える(歩幅の取り方を教える)     | 歩幅でできる環境設定を整え遊びを通していろいろな身体機能を鍛える(歩幅の取り方を教える)                               | 家庭、関係機関と連携して幼稚園での関わりを検討する。                     | -                              |

備考 本人、ご家族とわかば園、西宮たんぽぽ、こばと幼稚園が連携して、就学に向けて課題に取り組みます。  
わかば園ほしくみ 0798-0000  
西宮たんぽぽ 0798-0000  
こばと幼稚園 0798-0000  
兵庫医大HP 0798-0000  
こども病院眼科 078-0000  
わかばエール 0798-0000

本人署名: [ ] (捺印) 相談支援専門員: [ ] (捺印)  
次回見直し予定日: 27年 5月 日

## 特別支援教育コーディネータースキルアップ研修

- 1 目 的 子供の発達を医療、心理、福祉、教育など多様な観点からアセスメントできる力を養うとともに、具体的な支援方法の提案や組織的対応のコーディネートなど、教育現場における子供の発達支援の指導的立場となる教職員を育成することを目的とする。
- 2 対 象 西宮市立小中学校教員 20名  
※ただし、20名については学校長推薦とし、応募者多数の場合は、こども未来センターが校種・地域等を考慮し、全市的な立場で選定する。
- 3 研修会場 西宮市立こども未来センター  
(西宮市高畑町2-77 TEL0798-65-1882)  
その他、受講教員在職小中学校

### 4 研修日及び内容

| 回 | 開催日           | 分類   | タイトル                  | 内容                                      | 時間  |
|---|---------------|------|-----------------------|---|-----|
| 1 | 6月6日<br>(月)   | 社会心理 | オリエンテーション・制度と法律・合理的配慮 | 本研修の位置づけ・発達障害者支援法・障害者差別解消法・特別支援教育と合理的配慮 | 1.5 |
|   |               | 生命科学 | 脳の発達と発達障害             | 発達障害の正確な理解・被虐待児の理解                      | 1.5 |
| 2 | 6月14日<br>(火)  | 教育支援 | 行動支援の方法               | 行動目標の立て方・行動支援の方法・応用行動分析の考え方             | 1.5 |
|   |               | 教育支援 | 事例検討会の方法・模擬事例検討会      | 事例検討会の方法・模擬事例検討会①                       | 1.5 |
| 3 | 8月8日<br>(月)   | 社会心理 | 被虐待児への支援              | 被虐待児への具体的支援方法                           | 1.5 |
|   |               | 社会心理 | 家庭支援・ケースワーク           | 家庭支援の方法、連携                              | 1.5 |
| 4 | 8月9日<br>(火)   | 教育支援 | 学習支援                  | 学習障害児への対応・ワーキングメモリー実行機能への支援             | 1.5 |
|   |               | 教育支援 | コンサルテーション             | コンサルテーションの方法・模擬事例検討会                    | 1.5 |
| 5 | 9月8日<br>(木)   | 教育支援 | 巡回相談                  | 各学校の実際を視察(演習)                           | 3   |
| 6 | 10月14日<br>(金) | 教育支援 | 巡回相談                  | 各学校の実際を視察(演習)                           | 3   |
| 7 | 12月13日<br>(火) | 教育支援 | 巡回相談                  | 各学校の実際を視察(演習)                           | 3   |
| 8 | 1月24日<br>(火)  | 生命科学 | 子供のこころと脳の発達           | 感覚と認知と行動の関連・思春期と脳の発達                    | 1.5 |
|   |               | 教育支援 | 支援の発展のために             | 典型例の研究・予防的介入・最先端の知見                     | 1.5 |

※ 開始時刻は、いずれも14:00～

- 5 講 師 和久田 学 氏(子どもの発達科学研究所主席研究員・大阪大学大学院特任講師)

## 学校生活支援教室（のびのび教室）

1. 趣 旨 小学校の通常学級に在籍する児童の内、LD・ADHD・高機能自閉症等により、学校生活で配慮を必要としている児童に対して、安定した学校生活や集団活動が行えるよう支援するために「学校生活支援教室（のびのび教室）」を開設し、当該児童の支援を行うとともに、在籍小学校との連携体制づくりを行う。
2. 対 象 西宮市立小学校通常学級在籍児童
3. 実 施 日 〇 高学年の部（18：00～19：00）  
及び 6月8日（水） 15日（水） 22日（水） 29日（水）  
開級時間 7月6日（水） 13日（水） 20日（水） 27日（水）  
  
〇 低学年の部（17：00～17：45）  
6月9日（木） 16日（木） 21日（火） 30日（木）  
7月7日（木） 14日（木） 19日（火） 28日（木）  
  
〇 保護者教室  
専門家による相談、質疑など（対象：通級参加児童の保護者）  
高学年の部 7月 6日（水） 低学年の部 6月30日（木）  
※開催時刻は、のびのび教室開級時刻と同じ
4. 場 所 西宮市立こども未来センター 4F会議室 他
5. 内 容 〇 ライフスキルの習得（ソーシャルスキルやコーピングスキルなど）  
〇 感情の整理及び心の安定（フォーカシング）  
〇 自己表現の喜び体験と自己肯定感の向上（アートセラピー）
6. 講 師 稲富 眞彦 氏（関西学院大学教育学部教授）  
大東 和子 氏（上級教育カウンセラー 元西宮市立小学校教諭）  
藤井 昌子 氏（特別支援教育士 色彩楽園主宰）  
三宅 麻希 氏（四天王寺大学講師 臨床心理士）  
※その他、支援ボランティアとして関西学院大学大学生及び大学院生
7. そ の 他 ・募集人数は、いずれも20人とし、原則として先着順



# 学校園支援チーム業務【アウトリーチ】

